

Ⅲ 業 務 概 要

1 全体・成人サービス

1階の一般開架室には、芸術関係を除いたあらゆる分野の一般書が参考図書・新書・文庫・外国書・大活字本・地域資料・白書なども含め、約13万4千冊開架しています。また、新聞・雑誌や、全国の電話帳、国土地理院の地形図なども備えています。

中央サービスデスクは、図書館の総合窓口として利用者の登録手続、貸出（1階一般開架室・児童開架室の資料）、返却（CD・DVD・ビデオ以外の資料）、予約・リクエストの受付及び処理、簡便なレファレンスや所蔵調査、複写サービスなどを行っています。また、サービスデスクの一角に図書館相談コーナーを設けて、多様な資料を活用してのレファレンスや資料の相談などに応じています。

図書館資料の案内には、利用者開放端末4台を備えており、利用者が自由に検索できます。調査・研究をする方のために研究個室（4室）、パソコンルーム（2室）があります。高齢者や目の不自由な方へは、点字図書や大活字本の貸出、朗読サービスも行っています。なお、栃木県南3市2町（小山市・栃木市・下野市・野木町・壬生町）にお住まいの方なら、どの公立図書館でも利用できる広域利用図書館サービスや、平成20年4月からは、茨城県結城市との相互利用を開始し、結城市民にも利用いただいています。

また、平成20年7月に絹・寒川・生井・中の4公民館図書室の電算化を、平成21年1月に大谷公民館図書室の電算化を、4月には間々田分館の開館、平成22年10月の新図書館システムの入替えと同時に公民館配本所（豊田・穂積・桑）の電算化を行い、中央図書館と分館及び全公民館図書室・配本所のネットワーク化を行いました。平成25年4月2日には小山市小山城南市民交流センター内に城南配本所が開所、平成28年4月1日には小山市桑市民交流センター内に桑分館が開館し、中央図書館と分館・公民館図書室・配本所とのネットワーク化を行い、増々身近に利用できる図書館サービスを提供しています。

平成28年11月の図書館電算システム入替えに伴い、自動貸出機2台、ICゲート2台、デジタルサイネージ2台を導入しました。

(1) 予約・リクエストサービスと相互協力

読みたい本や雑誌がない時は、リクエストに応じています。その資料が貸出中の場合には、予約をし、返却され次第貸出しています。当館で所蔵していない場合には検討のうえ、購入したり、他の公共図書館や国立国会図書館から借り受けたりして、提供しています。また、平成15年1月6日から貸出中の資料のみインターネット予約受付を行いました。平成22年10月30日からは、中央図書館・分館・公民館図書室に設置してある利用者開放端末や図書館ホームページから所蔵資料の予約、ご自身の貸出・予約状況の確認、貸出延長手続き（次に予約がなく、その資料を延滞していない場合。1回まで。）ができるようになりました。予約・リクエスト件数は、全

館合計で図書・雑誌・視聴覚資料あわせて1人20点までを上限としています。

図書館間の相互協力業務では、他の公共図書館への貸出と借受、所蔵の調査などを行っています。資料の搬送は、主に栃木県立図書館の協力車の巡回を利用しており、多様なリクエストの対応に努めています。

また、平成29年2月から、国立国会図書館の「デジタル化資料送信サービス」が利用できるようになりました。

(2) レファレンス（調査相談）サービス

利用者から寄せられる趣味や日常生活上の疑問、学問や仕事上の調査研究における質問や相談などについて、図書館の資料を活用して利用者を援助します。その内容に応じて利用案内、読書相談、事実調査、所蔵調査、参考調査などを行い、利用者の求める情報や資料を探すお手伝いをしています。必要に応じて、県内外の図書館や専門機関などを紹介するレフェラルサービスも行います。

また、平成18年6月から、ホームページのレファレンスマニューで、レファレンスの過去の事例の検索やレファレンス申込みを受付けています。

(3) 複写サービス

調査・研究のために、図書館資料に限り、著作権法の範囲内で複写サービス(有料)を行っています。中央サービスデスクにコイン式の複写機を設置しており、複写申込みを受け付けてから、利用者が自分で複写をし、その後職員がその複写物を確認する方法をとっています。また、下野新聞のマイクロフィルム、CD-ROM、DVD-ROMの複写サービス、平成19年7月からはデータベースの複写サービスも行っています。

(4) 地域資料コーナー

小山市を中心として、栃木県および県内市町、さらに近隣地域に関する図書をはじめ、さまざまな資料や情報を収集・整備して利用に供しています。自分の暮らす地域を知る身近な情報源として、市民の役に立てるよう努めています。栃木県史・小山市史・統計書・報告書や観光案内・ガイドブックなど幅広く利用されています。

(5) ビジネス支援サービス

中央図書館では、ビジネスに関心を持つ方に必要な情報や知識を提供するために、ビジネス支援サービスに取り組んでいます。ビジネスを支援する関係機関等の中から小山市教育委員会が委嘱または任命する委員をもって組織される「おやまビジネス支援連絡会」を設置し、年2回の連絡会では、ビジネス支援に関する情報交換、ビジネス支援に関し必要な事項などを検討しています。

ビジネス支援サービスの一環として、1階一般開架室に「ビジネス支援コーナー」を設置し、ビジネス関連図書や無料求人情報誌、起業・創業者向けのパンフレット、中小企業支援策、企業のCSR報告書などのビジネス情報を提供しています。ビジネ

スに関連したテーマごとに、図書館に所蔵している資料等を紹介するブックリストも作成し、図書の展示も行っています。

パソコンルームではインターネットやオンラインデータベース5種が利用できるパソコンを5台設置し、図書では調べにくい新聞記事や法律情報、最新の情報等を提供しています。自分のパソコンを持ち込んで作業ができる部屋も用意しています。

また、館内の展示ケースとパネルを市内の会社・企業に開放し、自社の魅力を発信してもらう「発見！小山ゆかりの企業展」を実施して、地元企業を応援しています。公益財団法人栃木県産業振興センターの協力も得ながら、これまでに30社の展示を実施しました。

他に、ビジネスに役立つ知識や体験談などが聞けるビジネスセミナーを開催して、起業・就職・スキルアップ等を目指す方を支援しています。平成29年度は、中小企業庁栃木県よろず支援拠点との連携により、毎週土曜日、経営上のあらゆる悩みを専門家に無料で相談できる相談室「小山市立中央図書館サテライト」の開設や、少人数による内容を絞り込んだ実践的・効果的な無料経営セミナー「イブニングセミナー」を開催します。

(6) 農業支援サービス

ビジネス支援サービスの一環として、農業支援サービスを行っています。「図書館は小山の農業を応援します！」をキャッチフレーズに、地域に根ざした図書館サービスの充実と農業の活性化および地域の振興・発展に貢献することを目指しています。図書館の機能や資料を活用し、市農政課等関係機関と連携・タイアップして事業を実施しています。

1階一般開架室に「農業支援コーナー」を設置し、農業関連図書やパンフレットなどの農業に関する様々な情報を提供しています。農業に関連したテーマごとに図書館所蔵の図書等を紹介するブックリストも作成し、図書の展示も行っています。

「おやまブランド特産品コーナー」では、おやまブランドを中心とした小山の特産品・加工品を集めて紹介しています。また、小山市の農産物や特産物を一元的に把握できるホームページ「おやま地産地消ライブラリー」をインターネットで公開し、小山の農業を全国へ発信しています。

さらに、栃木県下都賀農業振興事務所とJAおやまの協力を得て「家庭菜園のコツ！相談事業」を開催し、家庭菜園や農業に関する相談に対応しています。

サービス開始から10周年を迎える平成29年度は、記念行事の実施等を予定しています。また、6月にアメリカ、シカゴ市で開催されたALA(米国図書館協会)のポスターセッションにおいて、当館の農業支援サービス事業の事例発表が行われました。

(7) 新聞・雑誌コーナー

各種の新聞・雑誌をそろえ、速報性のある最新の情報や気軽に読める娯楽的な情報を提供しています。ソファや畳のコーナーもある、くつろぎのスペースを設けています。

新聞は、主要な全国紙・地方紙等20紙と、新聞縮刷版4種を収集しています。また、政党新聞4紙を収集しています。下野新聞の創刊号（明治11年6月）からのマイクロフィルムも備えており、マイクロリーダーによる閲覧のほか複写（有料）も行っています。

雑誌は、さまざまな分野のポピュラーな基本雑誌を中心に1階一般開架室136誌、児童開架室13誌の合計149誌を開架し、バックナンバーを貸出しています。

また、地域に関する雑誌・小冊子、寄贈の雑誌・小冊子なども開架し、利用に供しています。

(8) 展示コーナー

来館者の資料に対する興味を一層深めるため、また、魅力ある楽しい雰囲気を作るため展示パネル・展示ケースなどを備えて、館内の企画展示や各種の資料展示、ポスターなどの掲示を効果的に行っています。この展示ケースは、一部を一般に開放して、手芸や工芸などの作品の発表に活用されています。お知らせコーナーは、図書館の行事予定や小山市の催し物などの情報を提供しています。

2 児童サービス

児童開架室には、主に幼児から小学生までを対象に、さまざまな分野の児童書・絵本・紙芝居など約2万4千冊と雑誌13誌・新聞1紙を開架しています。また、予備書架を設けて利用の多い資料の複本を用意し、スムーズに利用者に提供できるようにしています。児童開架室は、より多くの子どもたちと接し、本の楽しさを知ってもらうと同時に、図書館を身近なものと感じて親しんでもらえるよう努めています。

(1) レファレンス（調査相談）サービス

児童サービスデスクでは、子どもの読書や調べ物の相談、子どもの本に関する相談業務を中心に、予約・リクエストの受付や資料の整備、おはなし会をはじめとする行事等の企画・運営などを行っています。相談業務に重点をおいているため、ここでは貸出・返却は行いません。

(2) 調べものコーナー

児童開架室内には、小中学生の総合学習・調べ学習に対応するため、各分野の参考図書や図鑑を配架した調べものコーナーが設けてあります。

(3) 絵本コーナー

毎月テーマを替えて本を展示するフェイス・トゥ・アウトコーナーや、司書が選んだ絵本リスト「赤ちゃんから楽しめる絵本」、「いっしょに読みたい絵本」及び「みんなで選んだ小山市おすすめブック」を集めたコーナー、外国語(英語・韓国語など)で書かれている絵本を集めた外国語絵本コーナーなどを設け、目的によって利用しや

すいようにレイアウトを工夫しています。

(4) おはなし会

児童開架室の一角にあるおはなしコーナーで、おはなしや絵本、紙芝居の読み聞かせなどを毎月定例的に行っています。おはなし会は、職員による「おはなしウエンディ」（毎月第1水曜日開催）、「おはなしウエンディ0・1・2」（毎月第3水曜日開催）と、4つのボランティアグループ（「はなしのこべや」「おはなし水曜会」「朗読サークル『かがやき』」「小山子どもの本連絡会」）がそれぞれ行っています。

(5) 行事・講座

「としょかんこどもまつり」（5月）としょかんこども会「たなばた会」（7月）「クリスマス会」（12月）等があり、好評を博しています。読書活動推進の担い手の輪を広げるため、図書館活動および本に興味、関心がある市内在住の小学校及び義務教育学校5・6年生を対象とした「子ども司書養成セミナー」（5月～10月、全10回）を開催します。夏休み期間には、子どもを読書へと誘う事業を開催します。

また、大人を対象とした「子どもと本をつなぐ講座」を開催し、子どもたちにおはなしを聞く楽しさや本を読む楽しさを伝える「おはなしボランティア」を養成し、学校や地域の要請に応じて活動の場の紹介もしています。

「絵本とこんにちは」事業は、小山市健康増進課が実施する「9か月児健康相談」の際に、赤ちゃんと保護者が、絵本を介して心ふれあう時間を持つきっかけづくりとなるように、絵本のプレゼントと、赤ちゃん絵本を楽しむ時間を体験していただく取組みです。毎回、市保健福祉センター等に出向き、ボランティアの協力も得ながら、年間30回実施します。その後も、継続して本に親しめるよう、図書館の利用をすすめて、おはなし会への参加を促して、乳幼児からの読書活動を支援しています。

「すくすく・ほっと・タイム」は、赤ちゃんなど幼いお子さんと、その保護者の方が、図書館を気兼ねなくご利用いただくための時間帯です。「おはなしウエンディ0・1・2」とも関連づけて、毎月第3水曜日午前10時30分から12時に実施しています。赤ちゃんには、図書館ですくすくと健やかに過ごせる時間を、保護者の方には、図書館でほっとできる時間を提供します。

3 芸術・青少年・視聴覚サービス

2階の一般開架室には、芸術関係や青少年向きの資料、視聴覚資料をそれぞれのコーナーに開架しています。

2階サービスデスクでは、図書・雑誌の貸出と予約・リクエストの受付、CD・ビデオ・DVDの貸出・返却と予約の受付、レファレンスサービス、視聴席の管理などを行っています。

視聴覚資料によるサービスでは、CD・ビデオ・DVDを所蔵、開架しており、個人貸出や館内での視聴ができます。また、所蔵資料に加え、県内図書館所蔵のCDおよび

レコードの予約にも応じています。その他、視聴覚ホールでは、例年子ども向けの映像資料を上映する「子どもビデオ上映会（8月に3回）」や、大人向けの「ビデオ上映会（12月～2月に各1回）」を行うなど、視聴覚サービスの充実を図っています。

また、2階の第2集会室を個人学習をする人のために学習室として開放しています。

(1) 芸術コーナー

視聴覚資料に関連した美術・音楽・演劇・その他の芸術関係の図書約1万3千冊を開架しています。

(2) 青少年コーナー

中学生から高校生を主な対象とし、青少年向けの図書約1万冊をそろえ青少年の読書をすすめています。学び、読み、また音楽や映像にも親しめるように、視聴覚コーナーと隣接したスペースに設けています。

図書は、一般書と児童書のさまざまな分野から青少年向けの図書を選んで開架し、必要に応じて入れ替えを行っています。また、気軽に読書を楽しむきっかけ作りとして、手塚治虫などの漫画やティーン向けの文庫本なども開架し、利用者の好評を得ています。

(3) リユースブックコーナー

学習室から青少年コーナーに通じる廊下に、リユースブックコーナーを設けています。形態にかかわらず利用者から寄せられた青少年向けの図書等を置き、10代の利用者が冊数制限や返却期限を気にせず気軽に読書を楽しめるコーナーとしています。

(4) 視聴覚コーナー

CDは、邦楽・洋楽・ジャズ・クラシック・その他さまざまなジャンルから約1万900点、DVDは邦画・洋画・アニメ・幼児向け・趣味・教養など約2千400点、ビデオは、同様に約3千点を所蔵しています。館内では、CD・ビデオ・DVDの視聴もできます。オーディオブース（4席）やビデオブース（12台・18席）ではヘッドホンを使用して、リスニングルーム（2室）では1室5人までのグループでポデイソニックにより、音楽と映像を楽しめます。

4 小山分館

小山分館は小山市中央市民会館の2階にあります。平成19年3月に、市教育委員会事務局事務室の移転があり、それに伴って規模を縮小しリニューアルしました。開架室では、一般書・児童書などの図書資料を開架し、奉仕業務を行っています。

開架室には、一般書と地域資料約2万7千冊、児童書と絵本及び紙芝居など約1万1千冊のあわせて約3万8千冊の資料を開架しています。また、利用者開放端末（1台）

を設置しています。

閲覧室には、図書資料を利用したの調査・研究・読書のための閲覧席を50席設けています。

サービスデスクでは、登録・貸出・返却のほか予約・リクエストサービス、レファレンスサービス（調査相談）、複写サービスを行っています。予約・リクエスト、レファレンス等資料に関する相談を気軽に利用できるように努めています。

また、会場を借用してボランティアによる「小山分館ピッコロおはなしかい」も、毎月行っています。

5 間々田分館

間々田分館は、小山市間々田市民交流センター内(愛称しらさぎ館)にあり、平成21年4月1日に開館しました。開架室では、一般書・児童書などの図書資料を開架し、奉仕業務を行っています。

開架室には、一般書と地域資料約9千冊、児童書と絵本及び紙芝居など約7千冊、あわせて約1万6千冊の資料を開架しています。また、利用者開放端末（1台）を設置し、図書資料を利用したの調査・研究・読書のための閲覧席も12席設けています。

サービスデスクでは、登録・貸出・返却のほか予約・リクエストサービス・レファレンスサービス（調査相談）を行っています。予約・リクエスト、レファレンス等資料に関する相談を気軽に利用できるように努めています。

また、会場を借用して、「小山子どもの本連絡会」ボランティアの協力による「間々田分館おはなしかい」を毎月行っています。

6 桑分館

桑分館は、小山市桑市民交流センター内(愛称マルベリー館)にあり、平成28年4月1日に開館しました。開架室では、一般書・児童書などの図書資料を開架し、奉仕業務を行っています。

開架室には、一般書と地域資料約5千800冊、児童書と絵本及び紙芝居など約3千800冊、あわせて約9千600冊の資料を開架しています。また、図書資料を利用したの調査・研究・読書のための閲覧席を18席設けています。

サービスデスクでは、登録・貸出・返却のほか予約・リクエストサービス・レファレンスサービス（調査相談）を行っています。予約・リクエスト、レファレンス等資料に関する相談を気軽に利用できるように努めています。

7 移動図書館・公民館図書室・配本所

図書館サービスを市の全域にいきわたらせるために、図書館から遠距離に住む市民を対象に、移動図書館・公民館図書室・配本所において図書館サービスを行っています。

(1) 移動図書館

移動図書館“せきれい”が、市内20か所の開設場所を毎月1回巡回しています。

平成29年には、絹義務教育学校の開校に伴い、開設場所を一部変更しました。

移動図書館には、図書・紙芝居など約3千点の資料を積載し、利用者の要望に応じています。また適宜、図書の積み替えを行い、すべての開設場所において均等なサービスを行えるように努めています。

(2) 公民館図書室・配本所

絹・寒川・生井・中・大谷の5か所の各公民館に図書室を、穂積・豊田公民館と小山市小山城南市民交流センターの3か所に配本所を設置しています。各館の平成28年度の配本冊数は、絹公民館が約4千700冊、寒川公民館が約4千800冊、生井公民館が約5千200冊、中公民館が約4千400冊、大谷公民館が約3千700冊、穂積公民館が約600冊、豊田公民館が約1,100冊、小山城南市民交流センターが約3千300冊です。地域の住民が身近なところで日常的に利用できる図書室サービスを展開しています。貸出・返却業務は公民館職員等が担当し、図書館は資料の提供を行っています。

各図書室・配本所の図書を毎月定期的に入れ替えて、新鮮で魅力ある蔵書の構成を目指しています。

8 資料の収集・整理

図書館では、市民の教養を高め、情操を豊かにし、生活文化の向上に役立てるため、また、生涯学習の拠点として、多様化・高度化・国際化する情報社会に対応するために、「図書館の自由に関する宣言」及び「図書館員の倫理綱領」をふまえ、必要な資料の収集を行っています。

社会の動向や市民の要求、利用状況、出版状況等を総合的に判断し、さまざまな観点の広範囲な資料の収集を心掛けています。

収集する資料には、新刊図書を中心に、逐次刊行物、視聴覚資料、地域・行政資料、障がい者のための資料等があります。必要に応じ、一般の書店では入手が困難な自費出版物、地方小出版物等を収集する一方、年々増加する在日外国人にも利用いただけるよう世界各国の出版物の収集にも努めています。

ほかに、リクエストサービスの充実のため、速やかな資料収集、利用頻度の高い資料の複本、読書会用テキストの整備に力を注いでいます。

また、中央館・分館・移動図書館（公民館図書室・配本所を含む）全体を一つのシステムとして資料の選定や発注、受入、保存、除籍の作業を有機的に運営しています。

資料の選定は、職員で構成する資料選定会で、毎週1回、新刊図書の選定をしており、雑誌・新聞は年1回、CD・DVD等は随時行うとともに、出版社の巡回選書、店頭選書も適宜実施しています。

蔵書構成の適正な維持のために、蔵書点検を実施しています。また、書誌データの統一・修正等も随時行っています。寄贈、直販、弁償等の資料、庁内から収集したり市内書店から購入する地域・行政資料は受入、装備、書誌データの作成など、自館で整理しています。

(1) リサイクルコーナー

中央図書館と小山分館では、除籍・廃棄等になった図書・雑誌を、利用者の方々に有効活用していただくため、リサイクルコーナーを設置しています。リサイクル資料は無料で譲渡しており、冊数に制限はありません。売却しない、有償で貸出ししないことを条件に、利用者各自でお持ち帰りいただいています。

9 ハンディキャップサービス

さまざまな資料の提供を通して、市民の知る権利、学習する権利を保障することは、図書館の第一の目的です。

市民の中には体に障がいを持ち、図書館利用が困難な方もいます。基本的には障がいを持つ方が使いやすく、またその利用にどう応えていくかが課題になります。

当館では、点字図書や大活字本・録音図書をはじめ、布の絵本・点字絵本・点字雑誌の収集など、資料面での充実に努めています。

また、玄関のスロープ・点字ブロック・身障者対応エレベーター・朗読サービス室・多目的トイレ（オストメイト設置）・身障者用駐車場など、施設・設備面においてもより使いやすい図書館を目指しています。

昭和53年の小山市立図書館開館以来、郵送貸出を実施し、さらに昭和59年4月から宅配サービスを開始して、サービスの向上に努めています。

また、障がい者サービスに積極的に取り組んでいる公立図書館を対象とした「24時間テレビ」チャリティー委員会による障がい者サービス用機器の贈呈事業により、平成20年6月25日に拡大読書器や音声パソコン、点字ディスプレイや点字プリンタなどの機器の寄贈を受けました。

平成27年度から視覚に障がいのある方を対象にした視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」に加入いたしました。活字による読書が難しい方に「サピエ」からダウンロードをしたデジタイズした図書を貸し出すサービスを行います。

(1) 郵送貸出

体が不自由で来館が困難な方に資料を郵送により貸出するサービスです。視覚障がいのある方に点字図書、録音図書、大活字本を、その他の身体障がいのある方に一般図書や許諾を得た録音図書などを郵送します。貸出期間は1か月です。

(2) 宅配サービス

体が不自由で来館が困難な方の自宅へ資料を宅配するサービスです。視覚障がいのある方に点字図書、録音図書（朗読CD等）、大活字本などを、その他の身体障がい

のある方に一般図書や許諾を得た録音図書（朗読CD等）などを宅配します。月1回宅配しています。

10 図書館ボランティアの育成・受入

ボランティア活動は自己啓発、自己実現につながる生涯学習の一環でもあります。生涯学習の重要性が叫ばれる昨今、図書館もボランティア活動の場を提供するとともに、必要な知識を得るための研修機会の整備にも努めています。

(1) おはなしボランティア

図書館や学校・地域で活躍するボランティアの学習会に、資料の提供をしたり、学習機会を援助したりしています。また、活動の場の紹介もしています。

平成28年度に、中央図書館を会場にしたボランティアによるおはなし会は、延57回行われました。

また、ボランティア団体の多くが「小山子どもの本連絡会」（6団体と7個人で構成）を組織し、小山市立中央図書館と連携し、会員相互の研修と交流を深め、子どもと本に関する活動により、地域住民のよりよい文化環境を推進しています。「小山子どもの本連絡会」の平成28年度の活動日数は延199日、活動人数は延2,074人でした。

(2) 移動図書館ボランティア

移動図書館の開設場所で図書等の貸出・返却を行います。平成28年度は延407人が活動しました。各開設場所1回あたり約2人となります。

(3) 中央図書館ボランティア

書架整理や返却された本の配架を行うボランティアを、平成14年度から受け入れています。ボランティア活動にさきがけて研修を行います。登録期間は1年間です。

平成19年度からボランティアの活動内容も拡大され、防犯、本や雑誌の修理・補修、環境美化、図書館主催の行事のサポート、来館された体の不自由な方への利用の援助などの活動が加わりました。

また、ボランティア登録者は、平成19年8月から「中央図書館ボランティア連絡会」を発足し、自主的に毎月第1水曜日午前10時30分から正午まで、「ボランティア学習会」を開催し、自己研鑽に励んでいます。

平成28年度は登録者数79人、活動日数は延289日、活動人数は延1,429人でした。

11 団体貸出

市内の機関または団体の代表者（利用責任者）が直接来館して、中央図書館・小山分

館・間々田分館・桑分館・移動図書館・公民館図書室や配本所にある資料（原則として、CD・DVD・ビデオは除きます）の中から自由に選ぶ方法です。全館合計で100冊以内・1か月借りられます。学校やクラス単位での利用もできます。

1.2 広報活動

広報活動は、図書館への信頼と理解を深めていただくために欠かせないものとなっています。

(1) 「図書館だより」の発行

毎月発行の「図書館だより」で、集会行事や館内展示物等のお知らせをしています。各サービスデスクに備えて、来館者に配布しています。

(2) 「広報小山」の活用

毎月発行の市の広報紙「広報小山」に専用コーナー「図書館つうしん」を設け、図書館活動の周知徹底に努めると同時に、潜在利用者への呼びかけをしています。

(3) ホームページの開設

平成15年1月からホームページ（アドレス <http://library.city.oyama.tochigi.jp>）を開設しています。

インターネットを通して、蔵書検索や予約、レファレンスの事例検索・申込みができます。また、利用案内や図書館カレンダー、新着資料の案内もしています。さらに「お知らせ欄」では、集会行事のお知らせや報告記事を随時掲載しています。平成28年11月の電算システム入替えに伴うリニューアル時に、読書記録を管理できる「マイ本棚」の機能を追加しました。

また、平成20年2月から、小山市の農産物や特産物を一元的に把握できる「おやま地産地消ライブラリー」を公開し、小山の農業情報を全国へ発信しています。

(4) デジタルサイネージによる情報発信

平成28年11月の電算システムの入替えに伴い、中央図書館にデジタルサイネージ2台を設置しました。1台は図書館からのお知らせや利用案内、貸出・予約ランキング等を表示し、もう1台では小山市の観光動画等を放映して、情報発信に活用しています。